

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																					
新東京歯科技工士学校		昭和56年3月30日	福原 達郎		〒143-0016 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211																					
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																					
学校法人 東京滋慶学園		昭和61年2月1日	中村 道雄		〒143-0016 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																					
医療	歯科技工士 専門課程	歯科技工士科 I部		平成22年文部科学省告示 第五十三号																						
学科の目的	歯科技工士科I部は患者の笑顔と健康をサポートできる、基本が徹底的に強い、凛とした医療人(歯科技工士)を養成します。																									
認定年月日	平成26年 3月31日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	2322時間	742時間	0時間	1580時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
180人	139人	5人	8人	35人	43人																					
学期制度	前期:4月1日~9月30日 後期:10月1日~翌3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価は試験結果、出席状況、実習作品で評価する																						
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月の3週間 ■冬季:12月下旬~翌年1月の2週間 ■学年末:3月の3週間		卒業・進級条件	■成績評価 C以上 ■出席日数・取得時間数 授業時間数の2/3以上で																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任から家庭への定期的な電話連絡の他に、必要に応じて、個人面談、三者面談を実施する。		課外活動	■課外活動の種類 ・歯科技工士会と連携した研修会の開催 ・各種講習会、デモンショ-の参加 ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 歯科技工所、歯科診療所、大学歯科 病院、歯科機材メーカー ■就職指導内容 学内合同就職説明会や人事採用ご担当者を招き、情報提供に努めている。 ■卒業生数 52 人 ■就職希望者数 41 人 ■就職者数 41 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 78.8 % ■その他 ・進学者数: 10人 (平成 28 年度卒業生に関する平成29年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歯科技工士免許</td> <td>②</td> <td>52人</td> <td>52人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	歯科技工士免許	②	52人	52人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
歯科技工士免許	②	52人	52人																							
中途退学の現状	■中途退学者 6 名 平成28年4月1日時点において、在学者125名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者119名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 病気、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 電話連絡・個人面談・三者面談実施及びSSC(学校カウンセラ-)との連携強化		■中退率 4.8 %																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生制度(入学前の成績優秀者への学費減免)・スカラシップ制度(在校生向け学校独自指標優秀者への学費減免) ・被災罹災者学費減免 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																									
当該学科のホームページURL	URL:http://www.dt.ntdent.ac.jp																									

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界が求める人材要件(知識・技術・人間性等)を明確にし、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識・技術を反映するための場とし、次年度カリキュラムに活かしていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成において、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映するための教員と連携体制をはかる委員

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
西澤 隆廣	(社)東京都歯科技工士会	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
久木野 正宣	(株)東洋歯科	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
木下 隆之	(株)STLデザイン	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
福原 達郎	新東京歯科技工士学校	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
三鶯 雅子	新東京歯科技工士学校	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
高平 敦	新東京歯科技工士学校	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
今井 リカ	新東京歯科技工士学校	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
小島 三知長	新東京歯科技工士学校	平成28年4月1日～平成30年3月31日	
富野 浩子	新東京歯科技工士学校	平成28年4月1日～平成30年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成29年5月30日 9:00～11:00

第2回 平成29年11月21日 9:00～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ①歯科業界のデジタル化に対応できるよう、コース別授業で「デジタルコース」を開設。
CAD/CAM機器を用いた実習授業を実施し、即戦力となる歯科技工士を養成する。
- ②早期離職を防止するために、卒業2ヶ月後(6月中旬)に、同窓会に協力を得て同期会を実施。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

在学中に、様々な臨床実習や歯科技工士の働き方を知ることにより、卒業後の進路決定や将来像の参考になるような機会とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

在学中に、様々な臨床実習や歯科技工士の働き方を知ることにより、卒業後の進路決定や将来像の参考になるような機会とする。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップⅠ	歯科技工士が働く現場(歯科技工所や歯科診療所)の見学や体験を通して、臨床現場の仕事の流れを理解し、卒業後の進路決定の参考にする。また、訪問先で接する人々に対するマナーを知ることを通して社会性を身につける。	(株)STLデザイン、(株)オーリアラ、(株)佐藤歯研、DSデンタルスタジオ(株)、(株)メディナ、ケン・デンタリック(株)、(株)ジーシー等
インターンシップⅡ		デンテックインターナショナル(株)、(株)D-net、WORLD LAB U.S.A、(株)アソインターナショナル、Ultimate Styles、ACL Hawaii,Inc、oral design Los Angeles
校外実習	海外研修、国内研修を通して、海外の歯科事情や歯科業界の動向について学ぶ。	
コース別実習Ⅱ	総合コース、デジタルコース、スポーツコースに分かれ、それぞれの現場を見学、体験しながら、必要とされる知識を学ぶ。	STLデザイン、リンクイ(株)、みはる矯正歯科医院
コース別実習Ⅲ	総合コース、デジタルコース、スポーツコースに分かれ、それぞれの現場を見学、体験しながら、必要とされる知識を学ぶ。	STLデザイン、リンクイ(株)、みはる矯正歯科医院、Y's Dental Techno.Mouthguard Factory
コース別実習Ⅳ	総合コース、デジタルコース、スポーツコースに分かれ、それぞれの現場を見学、体験しながら、必要とされる知識を学ぶ。	(株)オーリアラ、STLデザイン、リンクイ(株)、(株)スマートプラクティスジャパン、みはる矯正歯科医院、

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修は教員の授業内容・方法及びクラスマネジメント能力を含む指導力を向上させる為に実施する。研修の対象は専任教員、学科長及び教務部長とし、個々の教育経験、在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた研修方法、到達目標、並びに評価指標を定めて実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

【CAD研修】

対象: 専任教員(デジタル担当教員2名)

内容: 歯科技工所の協力を得て、臨床的な歯科用CAD設計を実践する。

期間: 6月～7月(週1回)

【デジタル歯科学会】

対象: 専任教員(デジタル担当教員他2名)

内容: デジタル歯科の症例発表、最新技術の研究発表など

期間: 7月30日

【スポーツ歯学学会】

対象: 専任教員(スポーツ担当教員他2名)

内容: スポーツ歯科の事例発表、研究発表など

期間: 6月17日、18日

② 指導力の修得・向上のための研修等

【FD研修】

対象: 学科長

内容: アクションラーニング(チーム学習能力の育成)研修

期間: 6月7日

【国家試験対策研修会】

対象: 専任教員

内容: 国家試験合格に向けて、事例発表等

期間: 6月24日

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

【CAD研修】

対象: 専任教員

内容: デジタル担当教員による研修。授業で使用している機器を使用し、CAD/CAMでの製作手順を学ぶ。

期間: 必要に応じて不定期に実施予定

② 指導力の修得・向上のための研修等

【アクティブラーニング研修】

対象: 全教職員(専任教員含む)

内容: アクティブラーニングを活用した授業の事例発表

期間: 10月10日(実施済) ※専任教員対象には前、後期末の学部会議で事例発表予定

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置く。評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検・評価結果を客観性のある視点で評価と学校運営への理解促進につなげている。意見などを学校運営改善に向け、次年度事業計画の際に反映するようにしている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
鍛冶田 忠彦	昭和大学歯科病院	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
陸 誠	保護者	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	保護者
阿部 隆一	東星学園高等学校	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	高等学校
塩津 二郎	大田区蒲田歯科医師会	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	地域等委員
吉澤 和之	株式会社 オーリアラ	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL:<http://www.dt.nddent.ac.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

歯科業界の動向や最新の技術について情報提供していただき、カリキュラムの見直しを図る。また、学生の進路決定や将来の目標設定させる際の参考とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	国際連携の状況
(11)その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.dt.nddent.ac.jp>

授業科目等の概要

(歯科技工士専門課程歯科技工士学科 I 部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			歯科英語	歯科に関する英単語を中心とした歯科英語について学ぶ。	1年次前期	16	1	○			○			○	
○			英会話入門	基本的な日常英会話やトラベル英会話について学ぶ。	1年次後期	16	1	○			○			○	
○			造形美術概論	歯や歯列のデッサンを通して、形態のとらえ方や、立体的な形態の表現力について学ぶ。	1年次前期	16	1	○			○			○	
○			歯科技工士関係法規	「歯科技工士」として業務を行うために必要な「歯科技工士法」とその関連法規について学ぶ。	2年次後期	19	1	○			○			○	
○			歯科技工学概論	歯科医療に関する全般的な知識や歯科技工の重要性・歯科技工物についての概略を学ぶ。	1年次前期	20	1	○			○			○	
○			キャリアデザインⅠ (歯科技工学概論)	自分を知り、他者を知り、自分を信じる力を育て、言葉を使って自分なりに考え、他者と考えを通じ合わせ問題解決できるコミュニケーション力を学ぶ。	1年次前期	30	2	○			○			○	
○			キャリアデザインⅡ (歯科技工学概論)	歯科技工所の経営について、歯科技工所経営者や歯科技工所のマネジャーによる講義を行い、講師や学生間のディスカッションを通じて、経営戦略の要である「事業計画書」を作成方法を学ぶ。	2年次前期	16	1	○			○			○	
○			歯科理工学基礎Ⅰ	歯科材料の基本的な性質や、印象材、石膏、レジンの性質、成形法について学ぶ。	1年次前期	32	2	○			○			○	○
○			歯科理工学基礎Ⅱ	金属材料の性質や、歯科鑄造に必要な材料、器械、器具等の性質、使用法について学ぶ	1年次後期	32	2	○			○			○	○
○			歯科理工学応用Ⅰ	セラミックスや複合材料等の性質、成形法について学ぶ。	2年次前期	26	1	○			○			○	○
○			歯科理工学応用Ⅱ	金属、高分子、セラミックス、複合材料などの性質・成形法について、実習物の製作に応用できる知識を身につける。	2年次後期	29	1	○			○			○	

○		歯科材料加工実習Ⅰ (歯科理工学)	歯科技工士が使用する様々な歯科材料の取り扱い方について学ぶ。	2年次前期	32	1				○	○			○	○
○		歯科材料加工実習Ⅱ (歯科理工学)	歯科技工士が使用する様々な歯科材料の取り扱い方について学ぶ。	2年次前期	34	1				○	○			○	○
○		歯科材料加工実習Ⅲ (歯科理工学)	歯科技工士が使用する様々な歯科材料の取り扱い方について学ぶ。	2年次前期	36	1				○	○			○	○
○		歯の解剖学基礎Ⅰ	歯の形態や特徴、口腔内や頭部の骨・筋肉・神経などについて学ぶ。	1年次前期	32	2	○				○			○	○
○		歯の解剖学基礎Ⅱ	歯の形態や特徴、口腔内や頭部の骨・筋肉・神経などについて学ぶ。	1年次後期	16	1	○				○			○	
○		歯の解剖学応用Ⅰ	歯や顔面の発生、歯の組織について学ぶ。	2年次前期	26	1	○				○			○	○
○		歯の解剖学応用Ⅱ	歯や顔面の発生、歯の組織の内容について振り返り、学ぶ。	2年次後期	29	1	○				○			○	
○		歯型彫刻基礎Ⅰ (歯の解剖学)	歯の形態を歯種別にとらえ、見本模型を見ながらデッサン・歯型彫刻について学ぶ。	1年次前期	48	1					○	○		○	
○		顎口腔機能学基礎	顎の動きや顎の動きに調和した噛み合わせ・技工物製作に使用する咬合器について学ぶ。	1年次後期	16	1	○				○			○	○
○		顎口腔機能学応用	顎の動きや顎の動きに調和した噛み合わせの様々な様式について学ぶ。	2年次前期	19	1	○				○			○	
○		顎口腔機能学実践	フェイスボウトランスファーを体験し、半調節性咬合器の取扱い方について学ぶ。	1年次後期	26	0					○	○		○	○
○		有床義歯技工学基礎Ⅰ	虫歯や歯周病によって歯を失った場合に装着する義歯(総入れ歯・部分入れ歯)について学ぶ。	1年次前期	32	2	○				○			○	○
○		有床義歯技工学基礎Ⅱ	虫歯や歯周病によって歯を失った場合に装着する義歯(総入れ歯・部分入れ歯・金属床義歯)について学ぶ。	1年次後期	32	2	○				○			○	
○		有床義歯技工学応用Ⅰ	虫歯や歯周病によって歯を失った場合に装着する義歯(総入れ歯・部分入れ歯・金属床義歯)について学ぶ。また有床義歯技工学について総合的に学ぶ。	2年次前期	26	1	○				○			○	
○		有床義歯技工学応用Ⅱ	有床義歯技工学について総合的に学ぶ。	2年次後期	29	1	○				○			○	○

○		部分床義歯基礎実習Ⅰ	部分床義歯(部分入れ歯)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	1年次前期	30	1				○	○		○					
○		部分床義歯基礎実習Ⅱ	部分床義歯(部分入れ歯)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	1年次前期	38	1				○	○		○					
○		部分床義歯基礎実習Ⅲ	部分床義歯(部分入れ歯)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	1年次前期	34	1				○	○		○					
○		有床義歯基礎実習	個人トレーや咬合床など義歯製作の過程で使用するものについての理論と技術を学ぶ。	1年次後期	30	1				○	○		○					
○		全部床義歯基礎実習Ⅰ	全部床義歯(総入れ歯)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	2年次前期	30	1				○	○		○					
○		全部床義歯基礎実習Ⅱ	全部床義歯(総入れ歯)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	2年次前期	30	1				○	○		○					
○		全部床義歯基礎実習Ⅲ	全部床義歯(総入れ歯)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	2年次前期	30	1				○	○		○					
○		有床義歯総合実習Ⅰ	人工歯排列、歯肉形成のトレーニングを行い、全技協実技認定試験に合格できる技術を身につける。	2年次後期	30	1				○	○		○					
○		有床義歯総合実習Ⅱ	人工歯排列、歯肉形成のトレーニングを行い、全技協実技認定試験に合格できる技術を身につける。	2年次後期	34	1				○	○		○					
○		有床義歯総合実習Ⅲ	ワイヤー屈曲のトレーニングを行い、国家試験に合格できる技術を身につける。	2年次後期	36	1				○	○		○					
○		歯冠修復技工学基礎Ⅰ	虫歯などで削られた患者さんの歯に合った歯科技工物の要件、製作順序、インレー、全部金属冠等について学ぶ。また、歯を喪失した場合の歯冠修復物であるブリッジ等について学ぶ。	1年次前期	32	2	○				○		○					
○		歯冠修復技工学基礎Ⅱ	虫歯などで削られた患者さんの歯に合った歯科技工物の要件、製作順序、インレー、全部金属冠、ブリッジ等に加えて審美的な歯科技工物である前装冠等について学ぶ。	1年次後期	32	2	○				○		○					
○		歯冠修復技工学応用Ⅰ	審美的材料である陶材(ポーセレン)を使用した陶材焼付金属冠やオールセラミックスクラウンについて学ぶ。	2年次前期	26	1	○					○		○				
○		歯冠修復技工学応用Ⅱ	歯を喪失した場合の修復方法であるインプラントについて学ぶ。また、歯冠修復技工学について総合的に学ぶ。	2年次後期	29	1	○					○		○				
○		歯冠修復基礎実習Ⅰ	作業用模型の製作、インレー、全部金属冠等の製作を通して、それらの製作に関する理論と基本的な技術について学ぶ。	1年次前期	30	1					○	○		○				

○		歯冠修復基礎実習Ⅱ	作業用模型の製作、インレー、全部金属冠等の製作を通して、それらの製作に関する理論と基本的な技術について学ぶ。	1年次前期	38	1				○	○		○				
○		歯冠修復基礎実習Ⅲ	作業用模型の製作、インレー、全部金属冠等の製作を通して、それらの製作に関する理論と基本的な技術について学ぶ。	1年次前期	34	1				○	○		○				
○		歯冠修復基礎実習Ⅳ	作業用模型の製作、インレー、全部金属冠等の歯冠修復物に加えブリッジやより審美的な歯冠修復物に関する理論と基本的な技術について学ぶ。	1年次後期	30	1				○	○		○				
○		歯冠修復基礎実習Ⅴ	作業用模型の製作、インレー、全部金属冠等の歯冠修復物に加えブリッジやより審美的な歯冠修復物に関する理論と基本的な技術について学ぶ。	1年次後期	30	1				○	○		○				
○		歯冠修復応用実習Ⅰ	硬質レジン前装冠やブリッジの製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	2年次前期	30	1				○	○		○				
○		歯冠修復応用実習Ⅱ	硬質レジン前装冠やブリッジの製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	2年次前期	30	1				○	○		○				
○		歯冠修復総合実習Ⅰ	全部金属冠の製作過程であるワックスアップの回復トレーニングを行い、全技協認定試験に合格できる技術を身につける。	2年次後期	32	1				○	○		○				
○		歯冠修復総合実習Ⅱ	全部金属冠の製作過程であるワックスアップの回復トレーニングを行い、全技協認定試験に合格できる技術を身につける。	2年次後期	30	1				○	○		○				
○		歯冠修復総合実習Ⅲ	全部金属冠の製作過程であるワックスアップの回復トレーニングを行い、全技協認定試験に合格できる技術を身につける。	2年次後期	38	1				○	○		○				
○		矯正歯科技工学総論	矯正治療の概要を理解し、正常咬合と不正咬合、矯正歯科技工を行う上で必要な理論や基本的な手技について学ぶ。	1年次後期	16	1	○				○		○	○			
○		矯正歯科技工学各論	各種矯正装置の役割や製作順序について学び、歯や顎骨をどのように移動させるかを理解する。	2年次前期	17	1	○					○		○	○		
○		小児歯科技工学総論	小児期の成長発育や特徴について学ぶ。	1年次後期	16	1	○					○		○	○		
○		小児歯科技工学各論	小児期の疾患や異常、その成長に応じた各種装置の製作法に必要な理論や技術について学ぶ。	2年次前期	17	1	○					○		○	○		
○		技工基本実習Ⅰ (歯科技工実習)	有床義歯、歯冠修復の技工物製作に必要な基本技術を学ぶ。	1年次前期	34	1					○	○		○			
○		技工基本実習Ⅱ (歯科技工実習)	有床義歯、歯冠修復の技工物製作に必要な基本技術を学ぶ。	1年次後期	22	0					○	○		○			

○		歯型彫刻基本 (歯科技工実習)	器具の持ち方、石膏棒の削り方等、基本的な操作を学ぶ。歯の形態を歯種別にとらえ、見本模型を見ながらデッサン・歯型彫刻について学ぶ。	1年次 前期	42	1				○	○	○						
○		歯型彫刻基礎Ⅱ (歯科技工実習)	歯の形態を歯種別にとらえ、見本模型を見ながらデッサン・歯型彫刻について学ぶ。	1年次 後期	48	1				○	○	○						
○		スポーツ歯学入門 (歯科技工実習)	運動・スポーツそのもの、またデンタルチェックの実施、スポーツ傷害（外傷・障害）の診断・治療と安全対策を理解し、マウスガードの製作・調整法を学ぶ。	1年次 前期	16	0				○	○	○	○					
○		デジタル歯科技工入門 (歯科技工実習)	CADや3Dプリントなどデジタル技工の入門編。手作業ではなくコンピュータ（特にマウス）による設計方法を学ぶ。	1年次 前期	16	0				○	○	○	○					
○		矯正歯科技工実習 (歯科技工実習)	矯正装置の製作を通して、矯正技工に必要な基本的な製作技術と矯正治療の流れを学ぶ。	1年次 後期	30	1				○	○	○	○					
○		小児歯科技工実習 (歯科技工実習)	クラウンループ等の製作を通して、小児歯科技工に必要な基本的な製作技術と小児歯科治療の流れを学ぶ。	2年次 前期	30	1				○	○	○	○					
○		コース別実習Ⅰ (総合・デジタル・スポーツ) (歯科技工実習)	総合コース、デジタルコース、スポーツコースに分かれて基本的な模型実習を行い、製作法を学ぶ。	1年次 後期	32	1				○	○	○	○					
○		課題研究実習Ⅰ (歯科技工実習)	今までに習得した知識・技術を結集し、卒業課題研究作品を完成させることにより、各自の得意分野を伸ばし、専門性を深める。	2年次 前期	30	1				○	○	○	○					
○		課題研究実習Ⅱ (歯科技工実習)	今までに習得した知識・技術を結集し、卒業課題研究作品を完成させることにより、各自の得意分野を伸ばし、専門性を深める。	2年次 前期	30	1				○	○	○	○					
○		歯型彫刻応用Ⅰ (歯科技工実習)	歯の形態を歯種別にとらえ、見本模型を見ずにデッサン・歯型彫刻について学ぶ。	2年次 後期	30	1				○	○	○	○					
○		歯型彫刻応用Ⅱ (歯科技工実習)	歯の形態を歯種別にとらえ、見本模型を見ずにデッサン・歯型彫刻について学ぶ。	2年次 後期	30	1				○	○	○	○					
○		歯科技工実習総合Ⅰ (歯科技工実習)	印象採得の合同実習を通じてチーム歯科医療を理解する。また、習得した知識・技能について実習試験を行い、課題発見することで技術向上につなげる。	1年次 前期	24	0				○	○	○	○					
○		歯科技工実習総合Ⅱ (歯科技工実習)	習得した知識・技能について実習試験を行い、課題発見することで技術向上につなげる。	1年次 後期	36	1				○	○	○	○					
○		歯科技工実習総合Ⅲ (歯科技工実習)	各実習で使用する模型及び国家試験で使用する石膏棒等の準備をする。また、トレーニング及び実技試験を行う。	2年次 前期	36	1				○	○	○	○					
○		歯科技工実習総合Ⅳ (歯科技工実習)	実技試験を通じて課題発見し、全技協認定試験に合格できる技術を身につける。	2年次 後期	36	1				○	○	○	○					

○		コース別実習Ⅱ (総合・デジタル・スポーツ) (選択必修)	総合コース、デジタルコース、スポーツコースに分かれ、それぞれの現場を見学、体験しながら、必要とされる知識を学ぶ。	1年次後期	32	0				○	○	○	○	○	○
○		コース別実習Ⅲ (総合・デジタル・スポーツ) (選択必修)	総合コース、デジタルコース、スポーツコースに分かれ、それぞれの現場を見学、体験しながら、必要とされる知識を学ぶ。	1年次後期	28	0				○	○	○	○	○	○
○		コース別実習Ⅳ (総合・デジタル・スポーツ) (選択必修)	総合コース、デジタルコース、スポーツコースに分かれ、それぞれの現場を見学、体験しながら、必要とされる知識を学ぶ。	2年次前期	60	1				○	○	○	○	○	○
○		課題研究実習Ⅲ (選択必修)	今までに習得した知識・技術を結集し、卒業課題研究作品を完成させることにより、各自の得意分野を伸ばし、専門性を深める。	2年次後期	30	0				○	○	○	○		
○		インターンシップⅠ (選択必修)	インターンシップを通して、仕事と職場を理解する。	1年次前期	12	0				○		○	○		○
○		インターンシップⅡ (選択必修)	インターンシップを通して、仕事と職場を理解する。	2年次前期	24	0				○		○	○		○
○		校外実習 (選択必修)	海外研修、国内研修を通して、海外の歯科事情や歯科業界の動向について学ぶ。	1年次後期	52	1				○	○	○	○		○
○		総合歯科技工学Ⅰ (選択必修)	1、2年で学んだ科目についての知識を振り返ると共に、歯科技工をするにあたり総合的に捉え考える力を身につける。	2年次後期	16	1	○				○		○		
○		総合歯科技工学Ⅱ (選択必修)	1、2年で学んだ科目についての知識を振り返ると共に、歯科技工をするにあたり総合的に捉え考える力を身につける。	2年次後期	16	1	○				○		○		
○		総合歯科技工学Ⅲ (選択必修)	1、2年で学んだ科目についての知識を振り返ると共に、歯科技工をするにあたり総合的に捉え考える力を身につける。	2年次後期	16	1	○				○		○		
合計					81	科目	2322時間(79単位)								

卒業要件及び履修方法

授業期間等

学年ごとに必須単位数を修得し進級する。

全科目履修で卒業となる。

(留意事項)

1 学年の学期区分 前期・後期

1 学期の授業期間 27週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。